

エコクリーンピアはりま

環境事後調査(調査結果の概要)

1 環境事後調査の目的

本調査は、“東播臨海広域市町村圏における広域ごみ処理施設整備・運営事業”に関し、施設運営中の環境調査を行うことで、設置した施設が周辺環境に配慮した適切なものになっていることを検証するとともに、工事着手前に実施した生活環境影響調査（以下過年度調査）の結果と比較して顕著な乖離がないかを確認することを目的に行ったものです。

2 事業の概要

2-1. 事業概要

施設名称	： 東播臨海広域クリーンセンター（愛称：エコクリーンピアはりま）							
事業者及びその代表	： （事業者） 高砂市、加古川市、稲美町、播磨町	（代表） 高砂市長 都倉 達殊						
代表の所在地	： 高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号（高砂市役所）							
対象施設の種類及び規模	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設の種類</th> <th>施設規模等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可燃ごみ処理施設</td> <td>429t/日【143t/炉×3炉】（24時間運転） 焼却方式：ストーカ式焼却方式 余熱利用：発電及び場内余熱利用等 煙突高さ：59m</td> </tr> <tr> <td>不燃ごみ・粗大ごみ処理施設</td> <td>34t/5時間（最大） 破砕・選別処理</td> </tr> </tbody> </table>	施設の種類	施設規模等	可燃ごみ処理施設	429t/日【143t/炉×3炉】（24時間運転） 焼却方式：ストーカ式焼却方式 余熱利用：発電及び場内余熱利用等 煙突高さ：59m	不燃ごみ・粗大ごみ処理施設	34t/5時間（最大） 破砕・選別処理	
施設の種類	施設規模等							
可燃ごみ処理施設	429t/日【143t/炉×3炉】（24時間運転） 焼却方式：ストーカ式焼却方式 余熱利用：発電及び場内余熱利用等 煙突高さ：59m							
不燃ごみ・粗大ごみ処理施設	34t/5時間（最大） 破砕・選別処理							
事業の実施場所	： 高砂市梅井6丁目1番1号他							
運営開始日	： 令和4年6月1日							
処理対象ごみ	： 可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ							

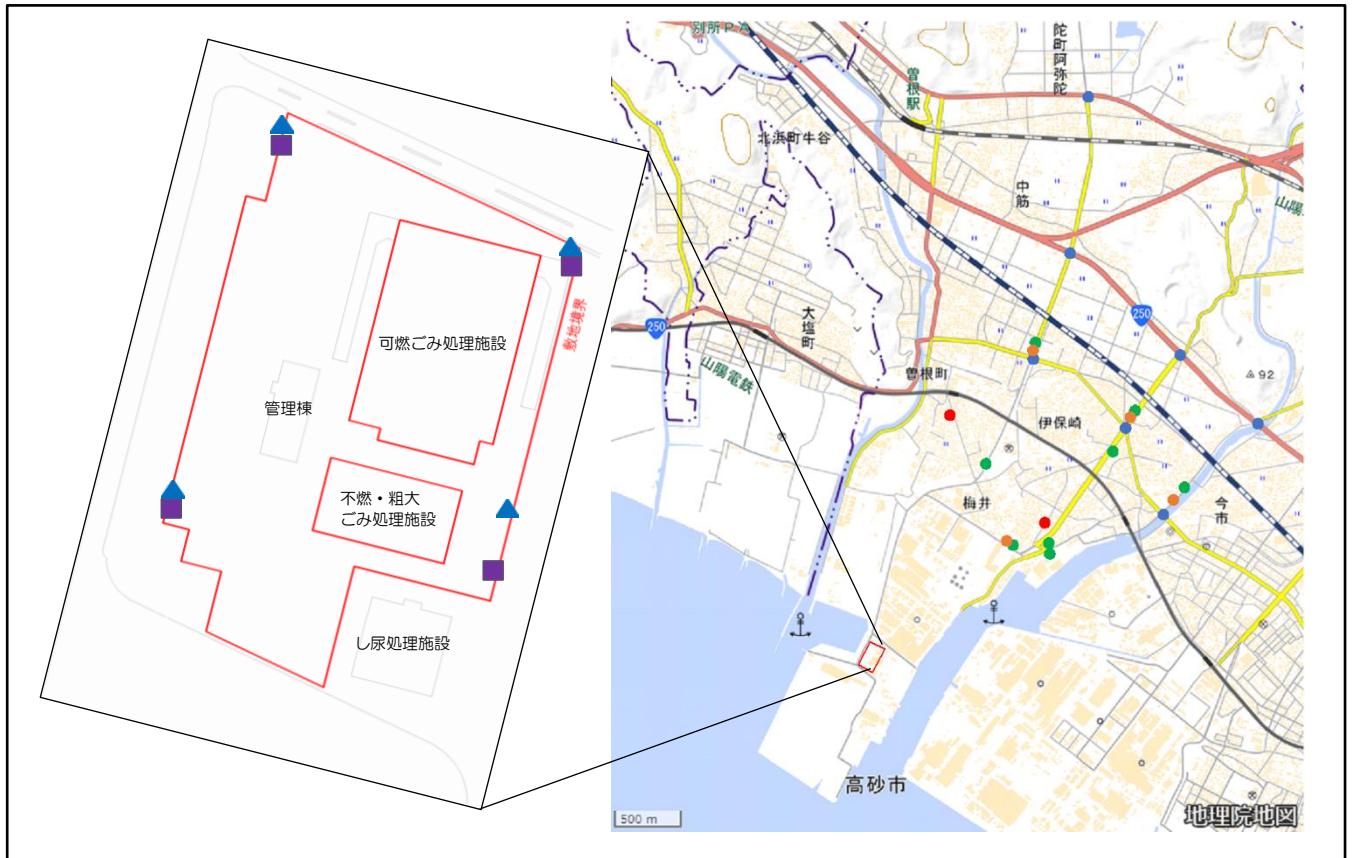
2-2. 環境事後調査の実施スケジュール

環境事後調査は、以下のスケジュールで行いました。

調査対象	測定項目	令和4年			令和5年									備考
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大気	一般環境項目	■	■		■	■		■	■		■	■		大気質（7日間） 降下ばいじん（1ヶ月）
	沿道環境項目	■												
騒音	一般環境騒音							■						
	沿道環境騒音	■												
振動	一般環境振動							■						
	沿道環境振動	■												
交通量	交通量	■												
悪臭	悪臭								■	■				
取り纏め	予測・評価											■	■	

2-3. 調査場所並びに調査時期

環境事後調査は、以下の場所・時期で行いました。



調査対象	調査時期		記号
大気	一般環境	【秋季】 令和4年10月18日～24日 (令和4年10月17日～11月18日) *1 【冬季】 令和5年1月24日～30日 (令和5年1月23日～2月22日) *1 【春季】 令和5年4月18日～24日 (令和5年4月17日～5月17日) *1 【夏季】 令和5年7月19日～25日 (令和5年6月26日～7月26日) *1	●
	沿道環境	令和4年10月18日～25日 (令和4年10月18日～26日) *2	●
騒音・振動	一般環境	令和5年4月18日6:00～19日6:00	▲
	沿道環境	令和4年10月25日6:00～22:00	●
悪臭	一般環境	令和5年5月30日 令和5年6月19日	■
道路交通	交通量	令和4年10月25日6:00～22:00	●●

*1) 大気質の一般環境における各季調査期間の () 内は降下ばいじんの調査期間を示しています。

*2) 大気質の沿道環境における調査期間の () 内はベンゼンの調査期間を示しています。

3 環境事後調査結果の概要

3-1. 施設稼働に伴う環境事後調査結果の概要

(1) 一般環境 大気質

一般環境大気質の現況及び過年度調査結果との比較

施設周辺の一般環境中の大気質は、環境保全上望ましいとされる環境基準等に適合する状況でした。過年度調査結果との比較では、年平均値において、すべての項目で過年度調査を下回る値となりました。

大気質調査結果総括表（もくせい公園）

物質名	単位	本調査			過年度調査			環境基準及び指針値並びに目標濃度
		日平均値	1時間値	年平均値	日平均値	1時間値	年平均値	
二酸化硫黄	ppm	0.001	0.008		0.004	0.012		日平均 \leq 0.04、 1時間値 \leq 0.1
二酸化窒素	ppm	0.015			0.022			日値平均 \leq 0.04~0.06
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.041	0.075		0.054	0.099		日平均 \leq 0.1、 1時間値 \leq 0.2
塩化水素	ppm	<0.001			<0.002			\leq 0.02
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³			0.0092			0.024	年平均値 \leq 0.6
水銀	μ g/m ³			0.0015			0.0018	年平均 \leq 0.04
降下ばいじん	t/km ² /月			1.571			3.065	—
粉じん濃度	μ g/m ³			28			36	—

注1) 大気質の環境基準等には、その物質により、年平均値、日平均値、1時間値などのそれぞれの基準等が設けられています。
注2) 表中の測定値は、それぞれの測定値のうち、最大の値を示しています。

大気質調査結果総括表（梅井児童公園）

物質名	単位	本調査			過年度調査			環境基準及び指針値並びに目標濃度
		日平均値	1時間値	年平均値	日平均値	1時間値	年平均値	
二酸化硫黄	ppm	0.002	0.008		0.009	0.017		日平均 \leq 0.04、 1時間値 \leq 0.1
二酸化窒素	ppm	0.017			0.027			日値平均 \leq 0.04~0.06
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.042	0.078		0.056	0.102		日平均 \leq 0.1、 1時間値 \leq 0.2
塩化水素	ppm	<0.001			<0.002			\leq 0.02
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³			0.010			0.022	年平均値 \leq 0.6
水銀	μ g/m ³			0.0018			0.0018	年平均 \leq 0.04
降下ばいじん	t/km ² /月			2.112			2.815	—
粉じん濃度	μ g/m ³			42			33	—

注1) 大気質の環境基準等には、その物質により、年平均値、日平均値、1時間値などのそれぞれの基準等が設けられています。
注2) 表中の測定値は、それぞれの測定値のうち、最大の値を示しています。

(2) 一般環境 騒音及び振動

①一般環境騒音（敷地境界における騒音）の現況及び過年度調査結果

施設の敷地境界で一般環境騒音を測定しました。測定の結果、高砂市環境保全条例施行規則で定める基準値（朝・昼間・夕:70dB以下、夜間:60dB以下）に対し、すべての時間区分において適合していました。

一般環境騒音調査結果及び過年度調査結果（単位：dB）

時間 区分	本調査				過年度調査	規制 基準
	測定値 (L _{A5})					
	北西	北東	南西	南東	敷地境界	
朝	55	51	54	55	59	70 以下
昼間	65	58	61	61	60	70 以下
夕	50	50	49	55	54	70 以下
夜間	50	50	48	55	51	60 以下

②一般環境振動（敷地境界における振動）の現況及び過年度調査結果

施設の敷地境界で一般環境振動を測定しました。測定の結果、高砂市環境保全条例施行規則で定める基準値（昼間:65dB以下、夜間:60dB以下）に対し、すべての時間区分において適合していました。

一般環境振動調査結果及び過年度調査結果（単位：dB）

時間 区分	本調査				過年度調査	規制 基準
	測定値 (L ₁₀)					
	北西	北東	南西	南東	敷地境界	
昼間	38	35	34	36	31	65 以下
夜間	25	27	25	30	26	60 以下

(3) 一般環境 悪臭

悪臭の現況及び過年度調査結果

施設の敷地境界及び発生源における悪臭調査のうち、法律に定められる特定悪臭物質（22物質）の濃度は、すべて悪臭の規制値（敷地境界上の規制値）以下の低い濃度となっていました。

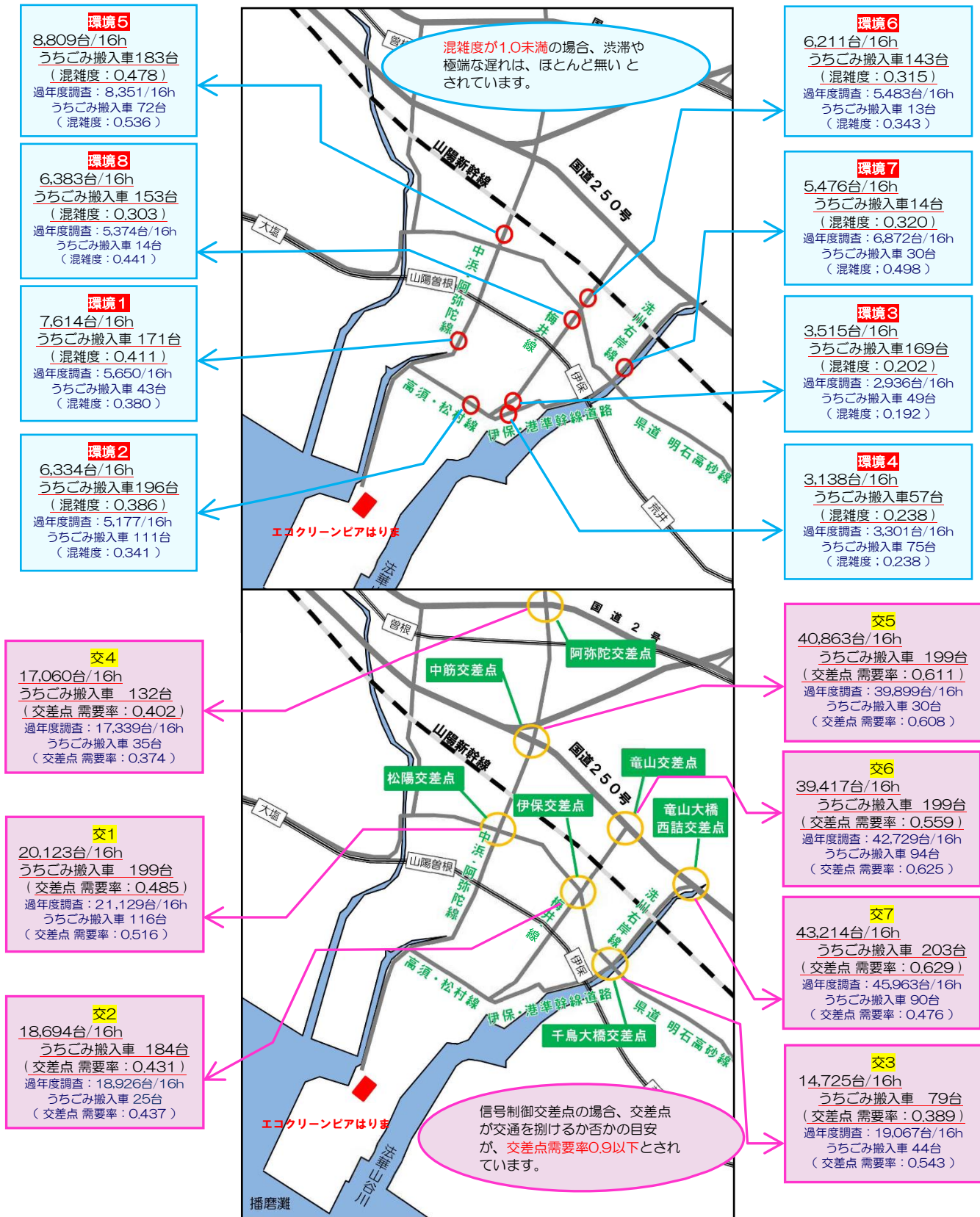
また、臭いの強さの指標となる臭気指数は敷地境界線及び発生源において「10未満」となり、臭いを感じない低い濃度となっていました。

3-2. 廃棄物搬入車両の走行に伴う環境事後調査結果の概要

(1) 沿道環境 交通量

主要路線の交通量の現況及び過年度調査結果

施設建設地周辺道路の断面交通量及び交差点交通量は、下図のとおりです。



(2) 沿道環境 大気質

主要路線沿道の大気質の現況

施設周辺の主要道路の大気質の現況及び過年度調査結果は以下のとおりであり、環境基準を十分下回っている状況でした。

(単位：ppm)

			本調査				過年度調査			
			環境 2	環境 5	環境 6	環境 7	環境 2	環境 5	環境 6	環境 7
二酸化窒素	日平均値	最大	0.012	0.018	0.014	0.011	0.010	0.015	0.011	0.008
		最小	0.005	0.006	0.004	0.004	0.003	0.004	0.004	0.003
	期間平均値	0.008	0.011	0.008	0.006	0.006	0.011	0.008	0.005	
	環境基準の適否	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1時間値	最大	0.029	0.033	0.026	0.023	0.034	0.032	0.032	0.023
		最小	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001

環境基準：二酸化窒素の1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

(単位：mg/m³)

			本調査				過年度調査			
			環境 2	環境 5	環境 6	環境 7	環境 2	環境 5	環境 6	環境 7
浮遊粒子状物質	日平均値	最大	0.021	0.023	0.024	0.019	0.022	0.016	0.023	0.021
		最小	0.006	0.006	0.004	0.004	0.016	0.005	0.009	0.006
	期間平均値	0.012	0.013	0.011	0.011	0.019	0.012	0.016	0.014	
	環境基準の適否	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1時間値	最大	0.040	0.061	0.046	0.041	0.037	0.026	0.029	0.029
		最小	0.000	0.000	0.000	0.000	0.007	0.002	0.004	0.002
環境基準の適否	○	○	○	○	○	○	○	○		

環境基準：浮遊粒子状物質の1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.2mg/m³以下であること。

(単位：μg/m³)

		本調査				過年度調査			
		環境 2	環境 5	環境 6	環境 7	環境 2	環境 5	環境 6	環境 7
ベンゼン	最大	0.57	0.63	0.86	0.52	0.70	0.94	0.64	0.71
	平均	0.39	0.40	0.55	0.35	0.59	0.80	0.52	0.57
	最小	0.26	0.25	0.25	0.18	0.41	0.62	0.36	0.39
	環境基準の適否	○	○	○	○	○	○	○	○

環境基準：年平均値が0.003mg/m³以下(=3μg/m³以下)であること。

(3) 沿道環境 騒音

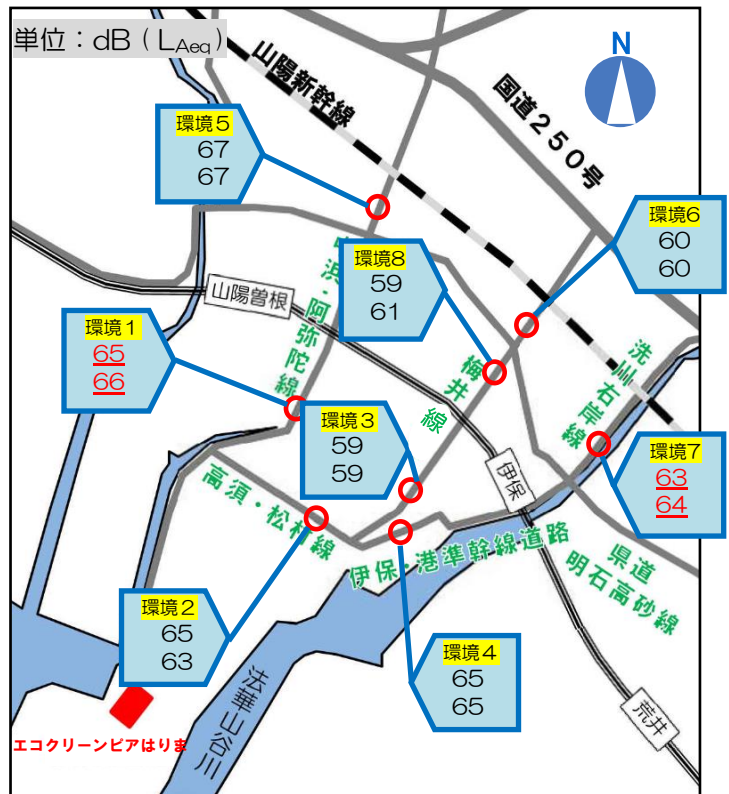
主要路線沿道の自動車騒音の現況及び過年度調査結果

施設建設地周辺の主要道路の自動車騒音の現況及び過年度調査結果は、右図のとおりです。

昼間時間帯の環境基準及び要請限度は、それぞれの地点により以下のとおり定められています。

	dB(L _{Aeq})	
	環境基準	要請限度
環境1	60以下	70以下
環境2	65以下	75以下
環境3	70以下	75以下
環境4	65以下	75以下
環境5	70以下	75以下
環境6	70以下	75以下
環境7	60以下	70以下
環境8	70以下	75以下

凡例	
上段：今回調査結果	
下段：過年度調査結果	
黒字：基準値 以下	
赤字（下線付）：基準値 超過	



注) 図中の測定値は、それぞれの測定値のうち、最大の値を示しています。

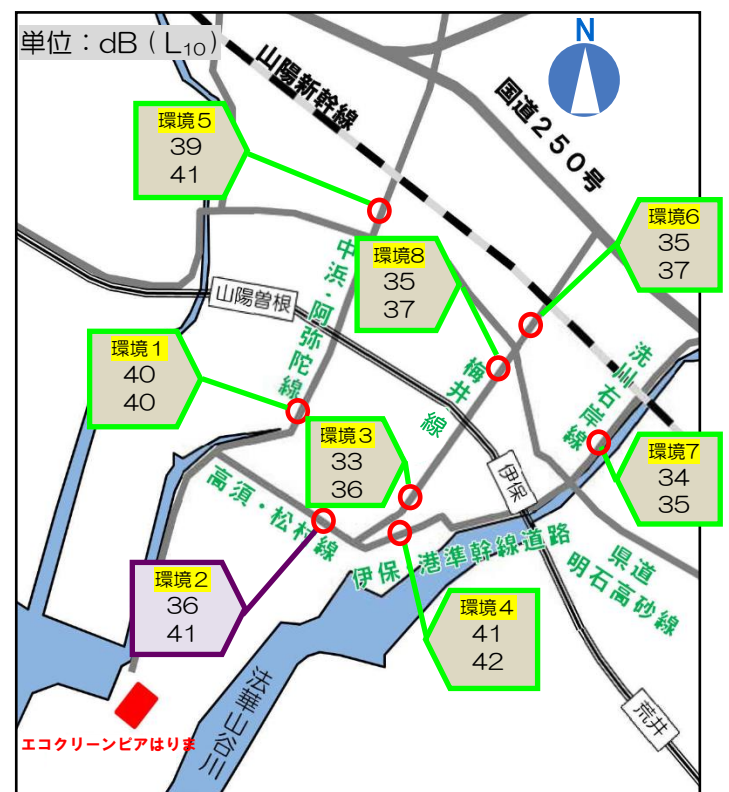
(4) 沿道環境 振動

主要路線沿道の道路交通振動の現況及び過年度調査結果

施設建設地周辺の主要道路の道路交通振動の現況は、右図のとおりです。

すべての地点において道路交通振動の要請限度65dB又は70dB（地点によって異なります。）を下回っていました。

凡例	
上段：今回調査結果	
下段：過年度調査結果	
緑線：要請限度65以下	
紫線：要請限度70以下	



注) 図中の測定値は、それぞれの測定値のうち、最大の値を示しています。

4 環境事後調査のまとめ

本調査は、“東播臨海広域市町村圏における広域ごみ処理施設整備・運営事業”に関し、新設した施設が周辺環境に配慮した適切なものになっていることを検証するとともに、建設工事着手前に行った生活環境影響調査の結果と比較して、顕著な乖離がないかを確認するために行いました。

前項のとおり、本調査の結果、本事業に伴う周辺環境への影響は、沿道騒音以外の項目において環境基準、その他規制値等を満足しており、過年度調査結果と比較して概ね同等でした。また、沿道騒音においては、一部の調査地点で環境基準を超過している結果となりましたが、過年度調査結果との比較においては数値が低減していました。

過年度に実施した本事業の生活環境影響調査において、本事業による周辺環境への影響は著しい影響を与えないと結論付けており、今回の調査結果からも本事業による周辺環境への影響は総合的に見ても著しい影響を与えないものと評価することができました。

よって、本事業が周辺の生活環境に与える影響は軽微であると判断しました。